

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100559		
法人名	有限会社 すずらん		
事業所名	すずらん 寿楽の家		
所在地	三重県桑名市大字稗田944番地		
自己評価作成日	平成26年10月30日	評価結果市町提出日	平成27年1月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470100559-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470100559-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 11 月 13 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者と職員が「家族」のような関係で日々過ごせるように早期から信頼関係を築き上げることによって、入居者の方の悩みや思いを聞き逃さない様職員一同努めている。また、屋外の散歩を日課にする事により体力の維持、季節感、集団で行動することによる入居者同士の交流等の効果、地域の方との挨拶や立ち話の機会にもなっており継続している。地域の行事にも積極的に参加を心掛けており、電話や来訪で介護等相談を受ける機会も年々増え、納得されるまで助言・説明させていただいている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一法人が運営する事業所から移転し、自然豊かな環境のもと、3ユニットのグループホームとデイサービスを開設して4年目である。各ユニットで特色を生かし常に理念を思い、管理者・職員が利用者に家族のように寄り添い、ゆったり安心して過ごせるように支援している。リビングからは利用者職員との楽しそうな会話が聞こえる。地域への散歩にも出かけ、地域との支え・支えられる関係を大事にしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員皆で作った理念を入居者と共に作成しフロアに掲げ共有・実践している。	「その人らしく、私らしく、共に笑い、共に生きる」の理念を念頭に、書の上質な利用者の手書きで書いた理念が各フロアの壁に掲示されて実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の店舗への買い物・外出支援や地域の行事等にも積極的に参加している。	自治会にも加入し、地域の行事・神社の掃除・防災訓練には職員が積極的に参加している。地域の新聞店が厚意で試読用の新聞を入れてくれ、利用者の楽しみの一つにもなっている。相撲甚句のボランティアの訪問もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を中心に情報を発信・共有し、それ以外にも地域の方の介護に関する相談等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期開催し、事業所の近況報告をするとともに出席者との様々な情報交換をしサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2か月に1回、開催している。行政・地域包括・自治会長・民生委員の参加を得て、地域の情報交換の場となっている。	運営推進会議は事業所の取り組み・課題を理解を得る機会であり、利用者家族の参加を促進をするようお願いする。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	機会ある毎に市役所の各関連部署に出向いたりして連絡調整を行っている。	行政へ管理者が出向き、連絡を密にしている。保護課からは、入居の依頼を受けることもあり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないケアを理解し実践できるように事業所内研修を開き、日々のケアに取り組んでいる。	現状「身体拘束」に該当することはしていない。毎月ユニット毎に勉強会を設け注意し、利用者が自然体で暮らせるように日々努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内にて高齢者虐待防止の研修を行い、関係者への周知徹底・防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて成年後見制度や権利擁護の利用を検討し、実際に成年後見制度・権利擁護を利用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはわかりやすく丁寧な説明に努め、その都度わかりにくい点は訊ねてもらっている。介護保険改定時の際も説明し同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談・苦情申立先を明記してあるとともに管理者や職員に話しやすい関係ができており、その内容によっては運営に反映させている。	面会時に管理者・職員は家族に話しかけ、要望・不満を聞くように心がけている。また利用者の状況は、電話で知らせるとともに、面会時は日々の記録表を見てもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回、法人内の施設長会議に代表者も出席し様々な意見交換等行っている。	管理者も介護の現場で働いており、日常的には思いや意見はその都度言える関係づくりが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での事業所間交流はあるが、同業者とは交流はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者とは日々のコミュニケーションを通じ様々な思いを早期に把握出来る様努め、意思疎通の困難な方は家族等関係者からの情報を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者本人だけでなく家族等の困っている事、今後の心配事など随時お聞きし共に考え支援できるよう、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者の出来る事・出来ない事を踏まえて、日常生活等(洗濯物や掃除等)を職員と共に行い、また入居者同士の支え合う場面も見受けられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	様々な家族と入居者の関わりを踏まえて良好な関係が継続できるよう、また共に入居者本人を支えていけるような対応に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者本人や家族からの聞き取り等から情報を得て、馴染みの方との連絡調整を支援したり行きたい場所に極力行けるように支援している。	昔の仕事仲間・ご近所だった方が訪ねてくれる。利用者の希望に合わせて、馴染みの商店街への買物・病院受診の帰りに自宅に寄るなど関係をつなぐ支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関わりについて把握し支援している。他者との関わりが苦手な入居者は無理のない様に職員がコミュニケーションの橋渡しを行い、使用者同士が自然と支え合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入退院などにより退所された後も必要に応じて、本人・家族の今後のサービス利用等における相談を受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望・意向を伺えるよう日々のコミュニケーションを大切にしている。困難な場合は家族等関係者から聞き取り意向の把握に努めている。	利用者に寄り添い話を聞いたり、表情やしぐさから思いや意向を把握するよう努めている。話すことの出来ない方にも常に声がけをし、心の動きが読めるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には本人や家族や担当者からこれまでの暮らしぶりやサービス利用状況等の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送りにおいて職員間で情報が共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の話し合いはできているが、その都度家族を交えてケアについての話し合いは中々機会が少なく、面会時や電話での連携も多いが現状に即した計画ができるよう努めている。	ユニット毎に計画作成担当者があることで、利用者の日々の変化を把握することが出来る。作成する計画書は毎月モニタリングを行い、会議で評価し、検討される。家族の思いは面会時や電話で確認をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日課表等に日々の様子や気づきを記録し、その内容を踏まえて介護計画の見直しや実践内容の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望に応じた買い物や外出を支援している。また定期往診の他、受診やリハビリも必要に応じて協力医療機関を中心に実施している。その他、外部の行事への参加等柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店への買い物や訪問理美容等、入所前と変わらぬ暮らしをより一層楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力医療機関を中心に、場合によっては個人の入所前のかかりつけ医の受診にも送迎・付添いまで支援している。	複数の医療機関を協力医としているが、利用者や家族の希望で従来のかかりつけ医での受診・往診が可能である。事情により家族の同行が困難な場合、適切な医療が受けれるよう事業所が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師とも連携し、緊急時対応、相談業務等状態変化に応じた支援を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行ったり、病院関係者や家族と連絡を取り合い、情報交換や受け入れ態勢の調整等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時点で家族とは終末期に対する考えや当事業所の方針等説明し、理解と同意を得、終末期になった場合は家族や主治医と連携を図り意思の確認をし、支援をしている。	入居時に看取りについては説明しており、重度化が進めば家族と職員が話し合いを持ち「家族の思い」を支援して行く意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを基に、AEDの使用方法含む緊急時対応を周知し、急変が起きた場合の対処方法も日々話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の他、飲料水や非常食の備蓄等、法人全体で話し合っている。運営推進会議を中心に地域との情報交換等、協力体制を築いている。	年2回、夜間想定を含め実施している。法人内の施設長会議で話し合い、備蓄等の検討を重ね万全の体制を整えるようにしている。地域の訓練にも職員が参加している。また、地域の避難場所としても当事業所が協力できないか検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳やプライバシーを損ねない声掛けや対応を心掛け、特に女性入居者の入浴・排泄介助は男性スタッフでもよいか等入居者の意思を確認します。	特にトイレ誘導の言葉がけや、入浴時の異性介助に対する思いや気持ちを聞き、プライバシーに気をつけながら思いやる気持ちで支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の対話を通じ、本人の思いや希望を聞き取れるよう働きかけ、何事にも施設側の押し付けにならないよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の生活リズム(体調・気持ち等)に合わせ、施設側の都合を優先する事無いよう日々のケアにあたっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着用する衣類を本人に選んでいただいたり化粧される方は必要な物品をそろえたりと支援しています。また定期的に訪問理美容も来訪し、以前からの馴染みの理美容でカットや毛染めされる方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と協力しながらテーブル拭き、配膳・下膳、簡単な調理を行っています。	副食は業者委託である。旬の野菜で食材の皮むき等、利用者が出来ることを見出し、職員が見守るなか下ごしらえをしてもらっている。座席等にも気配りをし、楽しんで食事をしてもらうよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分が必要量確保できるように声掛け・見守り・介助を行っています。摂取量は記録し把握します。個々に合わせた食事形態を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや誘導、介助により歯磨き等口腔ケアは行われている。協力医療機関の歯科医とも連携し、必要時は往診や通院、指示を仰いだりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を基に個々の排泄パターンを把握し、声掛け・見守り・介助を行っている。また、極力トイレでの排泄を心掛けている。	ひとり一人の排泄パターンを基本に日常のかかわりの中でのしぐさにも気をつけて、トイレでの排泄を支援している。夜間、利用者の希望でポータブルトイレを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医との連携のもと、体を動かすことと水分摂取の確保、また個々にあわせバナナやヨーグルト等を提供し排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各ユニットでの入浴の日時を協力し、極力個々の希望に応えられる体制をとっている。	ユニット毎に曜日を変えて、週3日の入浴となっている。職員との会話を楽しみながらゆったりとくつろげるよう心がけている。また、ゆず湯・菖蒲湯で楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠の為に空調や暗さ等個々に合わせた環境作りをしている。また、夜間ぐっすり休んでいただけるように日中の過ごし方にも注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの処方薬が変更になった時は、職員に効能、服薬方法等申し送りしている。毎日の服薬セットは間違いがあってはならないので特定の職員により行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設での日々の生活を今までの生活の延長と捉え、日常の家事を自身で出来る事は職員とともにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外への散歩や買い物、季節の花見等、戸外に出掛けられる支援を行っている。プライベートな外出についても家族と連絡調整しながら実施している。	日常、事業所周辺を散歩し、外気に触れる機会を心がけ、買物や季節ごとの花見などドライブに行ったりしている。家族の協力を得て外食にも出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じ現金を管理してもらい、敷地内の自動販売機やコンビニ等買い物の支払いを行っている入居者もみえます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行為が可能な方には支援は行われています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットは中庭を囲むように配置されており、日当たりも良く明るい。共有フロアには、入居者の写真や作品を展示してあり和やかな雰囲気作りに配慮している。	利用者が、過ごす時間が長いのがリビングで、大きな掃き出し窓から差し込む光と中庭の木々を見ながら利用者は、ゆったりと心落ち着かせ安心した生活を送っている。壁には写真が飾られているが、シンプルで落ち着いた雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士で居室を行き来されたり、共有フロアで皆で歓談されたり廊下で日向ぼっこをされたり思い思いに過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室内は入居前から使い慣れたタンスや鏡台等の家具や食器など持って来ていただき、新しい環境にも落ち着いて生活できるよう配慮させてもらっています。	居室にはベット・作り棚が設備され、明るく清潔で、外観が見渡せる。利用者は、心休まる写真・使い慣れた家具・テレビなどを置き、心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで手すりもあるので移動時に掴まる方もいれば歩行訓練のリハビリをされる方もみえます。動線上には極力物を置かない様にもしています。		